

JAえんゆう広報誌

ひざし

2018 1

No. 227

謹賀新年

今月の主な記事

- ◎新年のご挨拶
えんゆう農業協同組合
代表理事組合長 中川 菊夫…… 2
網走農業改良普及センター遠軽支所
支所長 竹岡 裕之…… 4
北海道農業協同組合中央会
会長 飛田 稔章…… 5
JAえんゆう青年部
部長 水野 暁
JAえんゆう女性部
部長 松浦三代紀…… 6
- ◎一日皆貯金当選者発表……… 7
- ◎平成29年度秋季農事部懇談会
◎秋季農事部懇談会の主な意見・要望……… 8
- ◎秋季農事部懇談会出席者……… 9
- ◎女性部フレッシュミズ合同研修会
◎フレッシュミズ絵画コンクール表彰式
◎青年部酪農専門部視察研修……… 10
- ◎全道JA青年部大会
◎農協役職員研修会……… 11
- ◎JAグループ通信……… 12
- ◎【第3回】協同組合は儲けてはいけない？
◎平成30年度
営農計画書作成協議日程について……… 13
- ◎「農業女子。えん♡ゆう子」
LINEスタンプ作りました……… 14

組合長新年のご挨拶

えんゆう農業協同組合 代表理事組合長 中川 菊夫



組合員の皆様、並びに農協役職員の皆様におかれましては、つつがなく平成三十年の輝かしい新年を、ご家族の皆様とともに、壮健にて迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年この地域の天候・作況状況を振り返りますと、四月に入り順調に雪解けが進み、中旬以降たびたび降雪に見舞われ、移植播種作業が心配されましたが、その後回復し、春作業は順調でした。しかし、五月には低温、六月には低温・長雨、七月に入ると今度は本州並みの梅雨を思わ

せる湿気と気温の高い日が断続的に続きました。収穫期に入る八月・九月には、昨年のような大型台風の襲来もなく順調に収穫作業は進みましました。当初、当地域は平年作と思われるていましたが、蓋を開けてみると小麦については、反当たり1俵半減少し、平均で7俵を割込みました。待望の小麦乾燥施設も新設され期待されましたが、残念な結果となりました。玉葱については反当たり、平年の2割減の3・5基となりました。市場価格についても輸入物がタブ着き安値で推移したため出鼻をくじか

れた結果となりました。その他シロ、馬鈴薯、南瓜、ビートなどの作物については、ほぼ平年作となりました。六月から七月の天候が安定せず、高い営農技術が求められる中、組合員皆様の営農努力によって、その被害は最小限であったと、あらためて敬意を表するところです。

酪農については、畜産クラスター事業による支援事業も継続されており、生乳価格は、昨年度より加工原料乳補給金単価は液状乳製品を含め一本化され、生乳買取価格と合わせると、1kg百円に迫ろうかと言う勢

謹賀新年

平成30年 元旦

えんゆう農業協同組合

代表理事組合長 中川 菊夫
 代表理事専務 菅井 誠
 理事 菅内 秀幸
 理事 関口 哲治
 理事 阿部 和彦
 理事 八巻 武則
 理事 久須田 栄治
 理事 岡和田 博
 理事 横尾 俊雄
 理事 高橋 敬貴
 理事 古関 則一



今月号の「いもたま作造くん」はお休みさせていただきます。

「クロスワードパズル」「当選者発表」「読者の声」「各課紹介」は休載させていただきます。

いす。個体販売価格も依然として好調を維持しており、ますます酪農家の搾乳意欲を押し上げています。酪農家戸数は、残念なことに昨年より6戸減少し、生産量前年対比では98・7%と、現時点では若干下回っておりますが、当組合として継続して良質粗飼料確保のための草地植生改善対策、コントラクター事業の充実と効率化、外国人労働者による労働補完、育成センターの事業拡充、哺育育成センターの計画整備と多面的な支援を一層進めてまいります。

また、農協改革の原点は、農業所得の向上にあることを肝に銘じ、昨年より一部購買品において手数料を軽減しております。今年度以降においても、良い生産資材を少しでも安く、組合員の皆様に提供すべく手数料率について見直しを進めてまいります。

一方、農政に目を移しますと、これまでの安倍政権による農政改革の取組みは、農地の集積、農業所得の向上、農業規制の三分野におけるもので、農業者の高齢化と担い手不足、耕作放棄地の拡大がすむ地域農業を、どう成長産業へと転換するかを目的としています。これまで「農地中間管理機構」の設置、飼料用米などの交付金制度の充実と農村環境の多面的機能維持のための交付金制度の創設など行ってきました。更に、農業規制に関する改革としては、全国農業協同組合中央会（全中）を平成三十一年九月までに一般社団法人へと移行させ指導・監査機能を引き剥がし、全国農業協同組合連合会

（全農）の株式会社への転換、農業委員会委員の選出方法を選挙制から専任制へと変更するなど一昨年の農協法改正により本格的な農協改革が進められています。

そして、改正から五年後をめざし信用事業窓口の北海道信連への譲渡がJAバンク体制整備の中で問われることとなりました。貯金を預かり貸出等により資金の運用を図っていく上で、金融機関標準の高度な内部管理体制を総合事業全体として確保し、行政庁から求められる最低限の内部監査の整備と十分な機能発揮、および貸出審査にかかる牽制機能の実効性の整備を平成三十一年の五月までに求められています。要するに信用事業の譲渡を素直に受け入れるのか、合併をして内部人員体制の整備を図るのか、このまま総合農協として体制を整備し信用事業を行っていくのか結論を出すことになり、ここで考えなければならぬ事は、信用事業を譲渡して、果たして、JA綱領にある「自主・自立と民主的運営の基本に立ち…」とある農協でいられるのかという事です。又、農業競争力強化プログラムでは、昨年の通常国会を経て「生産資材価格の引き下げ」と「流通・加工の構造改革」が打ち出されており、卸売市場法、加工原料乳生産者補給金制度が見直されていますが、生産者組合員の利益に繋がるものなのかどうか、一部の企業と一部の生産者だけに利益が誘導されるような法改正は断じて認めるわけにはいきません。

一方、国際貿易交渉の状況は、T

PP11、EPA、米国とのFTAなど、進展状況と合意内容の結果は、政府から十分な情報開示がなく、米国が抜けた中で、発効基準の見直しなど注視していく必要があります。

昨年十一月に、JAグループ北海道実践状況について、新規担い手倍増と550万人サポーターづくり、准組合員制度をテーマに「JA北海道大会実践フォーラム」が開催されました。今年も引き続き、道民に信頼と安全な地場産品をアピールして行くことが確認され、この大会を結んでまいります。これからも農協の「使命」は、地域の組合員に寄り添い、地域農業の振興を図り、安心安全な食料を継続的に国民に提供することと考えています。その意味においても、組合員皆様に安心して営農に従事していただける環境作り、自主・自立と民主的運営の基本に立てる組合員皆様の農協を目指してまいります。

今年の干支は戌ですが、戌年には「道に迷わない」「食べ物には困らない」と言った言い伝えがあるそうです。真っ直ぐに信じた道を迷わず進み、五穀豊穡の秋を皆様とともに迎えてまいりたいと思います。引き続き、当農協への特段のご協力とご理解をいただきますようお願い申し上げます。

結びになりますが、組合員家族の皆様のご健康と家内安全、絶対無事故を心よりご祈念申し上げます。平成三十年新年のご挨拶と致します。

酪農専門部会		代表 監事	佐藤 直行
		常勤 監事	石丸 政雄
参事	井上伸一郎	馬場 秀人	高橋 淳
職員	一同		
ビート専門部会		部 会 長	秋葉 宏之
		副 部 会 長	緑川 将仁
部 会 長	遠藤 政宏	林 秀和	名取 浩二
副 部 会 長	岡村 貴幸	松浦 健治	牧野 克好
ブロッコリー専門部会		部 会 長	平野 寿雄
		副 部 会 長	藤井 和人
部 会 長	宏光	穴戸 宏光	
玉葱専門部会		部 会 長	井上 靖
		副 部 会 長	山田 忍
部 会 長	三品 雅敏		

新しい年を迎えて

網走農業改良普及センター遠軽支所 支所長 竹岡裕之



新年明けましておめでとうございます。平成三十年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

農業者、関係機関の皆様には平素より農業改良普及事業の推進に対しまして深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、昨年のJAえんゆう地域の気象経過と農作物の作況を振り返りますと、春先は気温が高く、融雪が平年より早く進み、農作業は順調なスタートを切ることができました。5月は好天に恵まれ、各作物とも平年を上回る生育でした。6月に入ってから低温で降水量が多かったことから生育は緩慢となり、ほぼ平年並の生育状況に戻りました。また、9月には、台風に伴う強風や大雨により、大きな農業被害が生じました。秋まき小麦は6月の低温、多雨、日照不足により開花がばらつきました。登熟期間はほぼ平年並の日数を

確保できましたが、登熟後半の高温の影響を受け、収量は平年を下回りました。

てん菜は、根重は概ね平年並でしたが、湿害を受けたほ場では、肥大が緩慢となり減収となりました。糖分は平年よりも高い傾向となりました。

たまねぎは、春作業は順調に進みましたが、6月の降雨により、水やけや肥料抜けが見られました。また、低温の影響により、抽台が例年より多く発生しました。さらに、7月の高温による生育停滞、倒伏前後の少雨により球肥大が進まず、収量は平年を大きく下回りました。

飼料用とうもろこしは、湿害の影響を受けたほ場では草丈が低く雌穂の登熟も遅れました。また、9月の台風の接近・通過に伴う暴風により、倒伏や折損等の被害を受けました。全体の生収量は平年並みでしたが、乾物収量、TDN収量は平年をやや

下回りました。

牧草収量は、一番草、二番草とも平年並でした。一番草の品質は収穫作業が順調に進んだことからやや良となりました。

農業をめぐる情勢では、アメリカ合衆国の環太平洋連携協定（TPP）からの離脱や日欧EPA（経済連携協定）合意による酪農業への影響も注視していかなければなりません。農業の競争力強化は急務であり、経営改善や地域の営農システムの充実などで生産性を高めていく必要があります。

普及センターでは、皆様が取り組む対策を支援し、「地域に担い手が残り、残れる農業」の振興を目指し、積極的な活動を展開してまいりますので、ご協力のほどをよろしくお願いたします。最後になりますが、本年の豊穰の秋とご家族の皆様のご健勝をお祈り申し上げ新年のご挨拶といたします。

麦作専門部会

部会長 高柳 雅一
 副部会長 前島 英樹
 ” 篠原 健一

南瓜専門部会

部会長 大河原正一
 副部会長 森谷 満久

農機推進委員会

部会長 井上 実
 副部会長 西塚 仁志
 ” 柳田 拓馬

えんゆう農協青年部

部長 水野 暁
 副部長 箭内 優貴
 ” 牧野 俊介

えんゆう農協女性部

部長 松浦三代紀
 副部長 松田美由紀
 ” 渡辺ひろみ



平成30年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会 会長 飛田稔章



組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成30年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先は晴れの日が多く、気温も高かったことから農作業・生育も順調でありました。9月中旬以降は、雨の日が多く収穫作業が遅れが発生し、特に9月18日の台風18号によって、全道的に「デントコーン・水稲の倒伏、農業施設の損壊などにより、農作物の品質、収量に懸念が生じたところでした。

しかしながら、結果的には、米は、作況指数が103の「やや良」、小麦・てん菜は、収量・品質とも平年作、生乳は、全般的に安定基調と組

合員の皆様の努力の成果が報われた1年となりました。

平成28年9月に4つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生し、その傷も完全に癒えない中ではありますが、昨年元旦に新聞紙上で意見広告を行った『それでも種をまく。』という農民魂のもと、JAグループ北海道は着実に前を向いて歩んで参ります。

一方、国際貿易交渉の状況は、TPP11、日EU・EPA、米国との貿易交渉など、その進展状況と合意内容、農業経営への影響など生産現場に十分伝わっていないこともあり、将来への不安を抱え、担い手の生産意欲の減退が懸念されるところです。

農協改革、規制改革では、生産資材価格の引き下げと見える化、牛乳・乳製品の生産・流通においては、新たな加工原料乳生産者補給金制度

を盛り込んだ改正畜産経営安定法が成立するなど農業政策対応に追われた1年でありました。

JAグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、JA経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図って参ります。

さて、現在、JAグループ北海道は、第28回JA北海道大会のメインテーマである「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践を図っているところであり本年はその総括年度となります。

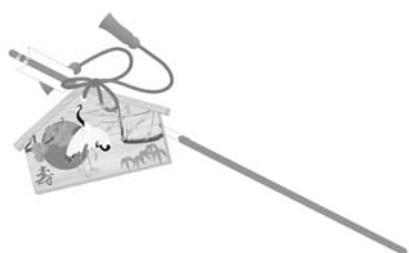
昨年はJAグループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、JAグループ内外に実践状況を発信すべく、新規担い手倍増と550万人サポートづくり・准組合員制度をテーマ

にJA北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、JAグループ北海道の英知を結集し、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ北海道を目指して参ります。関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。結びになりますが、今年の干支は戌戌（つちのえいぬ）です。

一説には、戌は、「茂」に通じる意味があり、「植物の成長が絶頂期にある状態」を表しているとのことでもあります。

今年は、この戌年にあやかり、天候に恵まれ実り多い豊穰の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶といたします。



新しい年を迎えて

J A えんゆう 青年部

部長 水野

暁



新年あけましておめでとうござい
ます。平成30年の新春を迎え、青年
部員ならびにそのご家族、農業関係
者の皆様には心よりお慶び申し上げ
ます。

昨年は春先の融雪も早く植付作業
は順調に進みましたが、6月の大雨
低温の影響をうけて収量の大幅な低
下があり大変苦勞する年だったと思
います。

農業情勢もTPP11、日EU間E
PAの大筋合意、米国との貿易交渉
性急な農協改革案など、憂慮する情
勢が続いております。

青年部活動は、例年実施している
町主催事業ならびに管内全道の青年
部協議会事業への参加、PR活動、
上湧別小学校4年生児童との農業体
験学習を通じた食育活動などをおこ
なつた他、オホーツク青年部協議会
の事業としまして、農林水産省職員
を招いて農村ファームステイ、JA
青年の主張、農の魅力コンテストを
おこないました。

農村ファームステイ事業では、就
農女性課の柴崎職員に来ていただき
農業女性との交流、搾乳実習、新設
麦乾施設見学、新規就農者との意見

交換会をおこない、現場の声を聴い
ていただくとともに親睦を深めるこ
とができ、有意義なファームステイ
事業にすることができました。開盛
デーリーファーム様、江面ファーム
様、女性部フレッシュミズの皆様、
各関係機関の皆様にはご協力いただ
き、誠にありがとうございます。

JA青年の主張では、審査委員か
ら高い評価をいただきましたが最優
秀賞には届かず、惜しくも優秀賞と
なりました。また、農の魅力コンテ
ストも入賞できませんでしたが、
各事業に参加する中で、私たち青年
部は、様々な知識や経験を積むこと
ができ、日頃の活動にも自信を持つ
ことができたと思います。

今後も青年部活動を通じて、部員
間の団結、相互理解を図り、JA運
営や営農に積極的に参画し、担い手
として努力していきたいと思えます。
最後になりましたが、本年も各関
係機関および各部員皆様の一層のご
支援とご協力をお願い申し上げます。
ともに、良き一年になりますよう祈
念して新年の挨拶とさせていただきます。

新しい年を迎えて

J A えんゆう 女性部

部長 松浦

三代紀



新年あけましておめでとうござい
ます。

新春を迎え、女性部員の皆様には
心よりお喜び申し上げます。

農協をはじめ、各農業機関・組合
員の皆様には、日頃より女性部活動
にご理解とご協力をいただき、感謝
申し上げます。

近年の気候の変化には、想像を絶
する観があります。一昨年の台風で
の被害を思い起こしますと、昨年は
8月の冷夏と大雨や9月の台風もあ
り、甚大な被害こそありませんでし
たが、作物の生育には決して良好な
年ではありませんでした。

農業を取り巻く情勢も、TPPな
どアメリカが加入しないと表明した
後も、残りの国での水面下での駆け
引きがおこなわれ、先行き不透明な
状況ではありますが、部員一人一人
が家庭での役割をきちんと果たし、

家族が一致団結して農業に取り組ん
でいただきたいと願っております。

さて、女性部活動も、昨年はフレ
ッシュミズの畑作班・酪農班・全体
の研修会も各2回ほど、視察や実習
などおこなわれました。女性部は近隣
のJAゆうべつ町女性部部員との合
同研修会と交流会を開催し、畑作部
会・酪農部会・上湧別地区・生田原
地区も各2回ほど、宿泊研修や研修
会など、活発に活動することが出来
ました。

そして今年も、部員間の絆を深め、
経営者のパートナーとしての資質を
磨き、女性部活動が個々の経営向上
の一助になればと思っております。
本年も引き続き各機関の皆様には、
女性部へのご指導とご協力をお願い
申し上げます。新年のご挨拶とさせてい
ただきます。

一日皆貯金 当選者発表

〈特賞〉 一万円（五名）

宮嶋江美子・森谷 宏幸・松田 一郎
須藤 正二・橋本 勝

〈金賞〉 五千元（十五名）

平野 寿雄・横山 笑子・渡辺 恵子
松原 仁美・大嶋 友和・高濱 博
三品美代子・須藤 正子・塚田みどり
大河原カツヨ・野田 健斗・竹中 順子
佐藤乃利子・岡崎 厚子・益山 光代

〈銀賞〉 三千元（三五名）

野田 秀子・花木 慶喜・森谷 大勝
成瀬 厚子・高柳 千鶴・花木 清範
斉藤三千代・花木 伸一・水村 諒子
吉田 勝江・竹内 一徳・工藤 茂樹
村田 智子・花木 静香・穴田 健二
谷口 裕美・松田 大夢・鈴木 和敏
尾形 奏・高橋キヌ子・淀野フジエ
岡村 愛子・宇野 宣子・箭内 優貴
伯谷昭三郎・原田あゆみ・橋本 俊二
木暮 和嘉・佐藤 照美・阿部 健司
岩城 健綱・久須田彩子・井上 純子

〈銅賞〉 一千元（百名）

堀江 光恵・秋田 勝利
吉村 和子・平野 孔基・中川 沙羽
森谷 盾紀・三品 翔雅・宮越 晴美
鈴木 光俊・野村 尚行・篠原よし江
佐々木泰治・上松 聖弥・細川小夜子
貝守 隆・水牧 千里・安藤ジョセリン
高柳 雅一・小成 祐一・佐野 宣雄
工藤 桂子・上松 拓実・村田 礼子
緑川 将仁・小野 道雄・原田 篤
石田 国子・高谷 正嘉・片平 悦子
岡和田道代・福島 悠司・岡村 悠希
三浦 敏・平井 啓太・中川 維都
菅野 静枝・横尾 洋子・仙庭 時雄
八巻 恵子・中島すま子・井上美栄子
松浦 健治・奥山 敏子・高橋 葉子
平井 紀美・加藤 美恵・植村 則子
近藤さおり・大嶋 翔真・藤井 勝美
武藤ゆき子・梅澤 明美・伊藤 知子
堀下クニ子・片岡 志信・村田 美佳
御囲 誠・長谷川富美子・和田ゆきえ
阿部美由紀・松田 雅樹・舟山ことね
石山 幸一・大江 栄子・新野尾トミ
小石澤佳奈・高栖 光永・荘司 由明

高橋 寿子・浜野 洋子・佐藤 洋子
佐々木則幸・斎野 那樹・久須田宏子
松田 寛・向中野ヒサ子・吉田 義巳
伊藤みよ子・佐藤真之助・森谷 佳純
笹原かほり・加藤由美子・伯谷 清人
鈴木 翔大・岡村 貴幸・斉藤美紀子
市原 祐二・原田 皓成・田中 福代
鹿野内祐子・佐久間シズエ・佐藤 明美
草野 由佳・須藤 吉夫・松井 敏宏
菊池 和江・井上 秀敏・山口 亮
林 伸丈・工藤たか子・木村タイ子
林 美由喜
（順不同・敬称略。お名前前に誤字等ございましてら、ご了承願います。）

当選された皆様、大変おめでとうございませう。賞金につきましては、一月末日までに貯金口座に入金いたしますのでご確認ください。また、当選された方にはあらためて文書にてご通知申し上げます。

当JAは、今年も皆様のお役に立てる金融機関として貯金業務はもちろぬ相談業務充実をはかり、皆様のご利用をお待ち申し上げております。

貴重な意見要望が寄せられる 平成29年度秋季農事部懇談会



秋季農事部懇談会の様子

秋季農事部懇談会を、11月25日～12月1日にかけて、22地区8会場を実施し、多くの組合員に出席していただきました。

懇談会では、今年度の作況、JA事業の進捗状況や今後の取組などを説明し、組合員からはJAに対する貴重な意見要望が寄せられました。

主な事項については、皆様にお知らせするとともに、理事会において十分検討し、今後の事業推進に反映させていただきます。

なお、記載漏れや内容の不備があったときはご容赦願います。

秋季農事部懇談会の主な意見・要望

【営農関係】

1. 上湧別地区堆肥上の残渣受入の手続きが複雑化することだが、手続きを簡素化してほしい。

↓道の現地監査にて指摘されており、受入日報等の書類が必要。残渣の処理施設では無く、あくまで堆肥製造施設であり、堆肥製造量の報告にあたり、調整材量を把握することは必ずおこなわなければならないため、受入時に日付・数量等の記載は必要となる。

2. 堆肥の取りまとめ・運搬時期を少し早く願いたい。

↓昨年まで希望の量を組合員に提供出来なかったため、秋口に期日を決め、不足の場合は按分して配分をおこなっていた。次年度からは春先に取りまとめをおこなない、希望数量を確定させて対応したい。

3. FAXの更新について、既存機器が古くなってきているが、農協は今後もFAXを使用して組合員への連絡等をおこなっていくのか？

↓現在の連絡手段としては、メール・SNS等が主流であることは十分に理解しているが、組合

員個々については地区ごとのインターネット接続環境が異なることもあり、また通信環境がFAX中心となっていて高齢の方もあることから、しばらくはFAXが中心となる。今後、JA内のシステム環境の更新などに連動して考えていきたい。

4. コントラクターの人員は今後も安定して確保出来るのか？

↓5年前に比べ人員が2名減少している。作業量が年々増加していることもあり、今後も最低限の人数は確保していきたいが、簡単に人が集まらない状況になる。踏込作業など組合員各位のさらなるご協力をお願いしたい。

5. コントラクターの作業員について、秋口には作業がなくてヒマだと言っている。作業中の簡単な修理についてもすべて業者にさせることになっていないと話している。農協がそういった指導をしていると聞いたが、こういった状況の中でコントラクター料金を上げるより先にやることがあるのではないのか？

↓派遣職員については、以前に比べ派遣期間を短縮して経費の圧

縮に努めている。(以前は3月から11月末まで。現在は4月中旬から11月上旬まで)ご指摘のようなことは無いと考えているが、そのような状況であれば更なる期間短縮、または一部人員の期間短縮等考えてまいりたい。いかに修理費を削減するかがコントラクター収支の一番の懸念材料であり、今までもこれからの経費がかからぬよう出来ることは現場で対応するよう指導している。

6. フォークリフト研修をまた農協で開催してもらえないか？

↓前回開催時には約30名の方々に参加いただいた。20名以上の参加者が集まるのであれば開催可能との回答を前回いただいた。

7. 遠軽地区の熊檻の対応について、今後何基ぐらい設置出来るのか？

↓振興局より現在の2か所での対応(猟友会・農協)ではなく、窓口を1つにするように指導されている。(あまりに隣接した場所に多くの檻の申請があるため)基本的に被害の確認、または対象となる熊が確認されてから申請する流れとなっているため、設置基数については現状では回答出来ない。

8. 賦課金はどのような内容で上げるのか？

↓現在詳細については総務委員会にて協議中。賦課金については1戸平均が管内で一番安価な不可水準であることから、今後賦課率の変更をおこなってまいりたい。

9. 担い手と今後の人手不足について農協はどう対応するのか？

↓担い手については今まで通り行政と連携し取り進めていく。人手不足については外国人研修生の活用および北見農協連を中心として取り組む、道外産地間の人材交流等の活用を視野に入れて対応していく。

【管理関係】

1. ラッキーに中湧別店譲渡後、とんでん市場の活用方法は？

↓ローソンと話し合いを持ったが、拡張・イートインスペースなどは上湧別店の経営状況からみると厳しい。今後賃貸を検討していきたい。

【畜産関係】

1. 計画している預託事業について具体的にどこまで進んでいるのか？

↓今回、今までの経過とこれまでの事業を進めていくために㈱えんゆう哺育育成センター設立の考え方の冊子を作成。この事業の

構想、飼養管理体制等、事業を成功させるためのポイントについて、平成31年の事業着手が出来るように今後組合員の聞き取りを含めた協議をおこない取り進めていく。

【農産関係】

1. 小麦乾燥経費について旧施設より大幅に変わるのか？

↓概算で平均キロ5円程度上がる見込み。

2. 大豆生産について耕作者が増加した場合の農協の対応はどうか？コンバインのアタッチ変更料を農協で負担してもらえないか？

↓現在農協でコンバインの取得およびアタッチの変更料金の負担をおこなう考えはありません。耕作者の増加が図られた際には別途勘案いたします。

3. 玉葱の共済金は今年中に入金されるのか？

↓12/28に仮払いされる予定。本生産は8月におこなわれる予定。

【その他】

1. 報道されている農協の貯金部門の分離の内容を教えてください。

↓メリット・デメリットに分けて説明させていただきます。

◆メリットへ人件費やコスト削減 信用部門人員を他部門に振り

分けることが出来る。金融機関としての拘束が無くなり、公認会計士監査・内部監査複数人専従・貸倒引当金査定簡素化が挙げられる。◆デメリットへ農協運営（収支）の悪化
プロパー貸付は廃止。信連からの借入となる。早急な資金手当てが出来なくなり、特に負債整理関係資金は今まで以上に対応が難しくなることが予測される。

【秋季農事部懇談会出席者】

	午前	午後
11月25日(土)	開盛・札富美・旭 7名	富美・上富美 15名
11月29日(水)	屯市・5の2・5の3 21名	4の3・5の1 24名
11月30日(木)	4の1・4の2 23名	遠軽 19名
12月1日(金)	生田原 12名	丸瀬布・白滝 15名
	合計 136名	

出会い、暮らし、思い出。そして、別れ・・・。

人生最後の葬祭の儀式。それは故人の哀悼の念を捧げる厳粛な場ではなくてはなりません。えんがる斎場は、突然に訪れた予告のない儀式をつつがなく執り行うため、悲しみに暮れるご遺族に、最良の方法と、こまやかな心くばりでご奉仕いたします。個人葬をはじめ、多くのご会葬の方々をお迎えする大規模な社葬、団体葬など、宗教・宗派を問わず、最新の設備で、葬祭に関するすべてのことをお手伝いさせていただきます。

〒099-0401 北海道紋別郡遠軽町学田2丁目6番地1
TEL (0158) 42-9898
 FAX (0158) 42-9933

かわいらしくアクセサリをつくらせていただきました 女性部フレッシュユミズ合同研修会

J A女性部フレッシュユミズでは、12月13日にJ A本所で合同研修会を開催し、部員13名でサニークラウデイの細川佐和氏と木下泉氏を講師に招いて、自作でのアクセサリづくりを学びました。

初めてアクセサリーをつくるフレッシュユミズ部員も多し中、ヘアゴム・ネックレス・ブレスレットを作りました。最初にベースとなる型を部員それぞれ選択した後、自分がイメージしたものを色付けしたり、飾り付けしたりしていきます。

最初は悪戦苦闘していた部員も少しずつ慣れていき、1時間ほどで世界にひとつだけのオリジナルのアクセサリをつくることができました。

出来上がったアクセサリーをお互い見せ合って、感想を話し合うなどして、次のアクセサリづくりに役立つ意見も多く話せて、有意義なうちに合同研修会を終えることができました。

今後もフレッシュユミズでは、様々な企画を合同研修会でおこなっていきたいと思いますので、多くの参加よろしくお願ひ申し上げます。



教わりながらアクセサリーをつくる部員のみなさん(上)
かわいいアクセサリーをつくれました(下)

絵を通じて農業の魅力を伝える図画 フレッシュユミズ絵画コンクール表彰式

J A女性部フレッシュユミズでは、子供たちに絵を描くことを通じて、農業に親しみをもってもらうことを目的として、今年から絵画コンクールを開催し、初年度の今年も試行として、遠軽町立瀬戸瀬小学校の児童を対象にコンクールをおこないました。

子供たちが一生懸命描いてくれた農業にかかわる絵画をフレッシュユミズ部員みんなで厳正な審査をおこない、J Aえんゆう賞、エコープ賞、フレッシュユミズ賞の各賞を選出し、その授賞式を12月22日におこない、菅原敏明校長を通じて、子供たちに表彰状と副賞が手渡しました。

初めての試みだったため、試行錯誤しながらおこなったため、大きくおこなうことが出来ませんでした。成功裏のうちに終わることが出来たので、来年度以降は対象校を拡大して取り組みたいと考えておりますので、ご理解

ご協力賜れば幸いです。なお、受賞者は左記の通り。(敬称略)



受賞した瀬戸瀬小学校児童のみなさん

- J A えんゆう賞
よだもりのしん 吉田森之進くん (5年生) (右)
- エコープ賞
はやし 愛実さん (6年生) (中)
- フレッシュユミズ賞
きくち 遥生くん (6年生) (左)

配合飼料の原料情勢の把握 青年部酪農専門部視察研修

J A青年部酪農専門部は、11月29日(土)にかけて恒例行事の視察研修を開催し、参加部員14名で札幌市のホクレン北海道農業協同組合連合会本所の飼料推進課を訪れて、酪農では欠かすことが出来ない配合飼料の原料情勢について学びました。

今回、飼料推進課の小山田考査役から配合飼料の主原料であるとうもろこしを始めとした穀物の生産状況や価格情勢、ならに諸外国の輸出入情勢などについて、わかりやすく教えてもらうとともに、ホクレンの生産資材コスト低減取り組みなどについても説明していただき、短い時間でしたが有意義な研修とすることが出来ました。



講習を受ける部員の皆さん

研修を終えたあとは、宿を取った札幌に移動し、会食の席では部員お互いの親睦を深めて、視察研修を終えました。

全道JA青年部大会

12月7日～8日、全道各地のJA青年部が集う第66回全道JA青年部大会が札幌市内のホテルでJAえん



全道JA青年部大会に参加した部員の皆さん

ゆう青年部員7名を含む全道の若手農家他850人を集めて開催され、『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現への2点を掲げる大会宣言、そして「農協改革に対する特別議決」を満場の拍手で採択し、2日間の大会を終えてきました。

大会1日目に、青年の主張大会や青年部活動実績発表大会、分科会を見聞して見識を深め、全体懇親会で全道の盟友たちと結束を深めました。

大会2日目は、基調講演でタレントの檀蜜さんと「あぐり王国北海道NEXT」の司会役で出演しているHBCアナウンサーの森結有花さんが壇上にあがり、自身の仕事と農業の関わり合いの中で感じた農業の魅力について、エピソードを交えつつ話していただきました。違った目線での農業の魅力や素晴らしさを教えてもらい、農業に対する思いを新たにして、大会の参加を終えることが出来ました。

「農協改革と北海道農業の行方」を学ぶ 農協役員研修会

12月22日、JA本所に役員ならびに女性部・青年部役員等が参集し、農協役員研修会が開催され、北海道大学農学研究院地域連携経済学研究室の小林国之准教授から、「農協

改革と北海道農業今日の行方」について学びました。

改革が叫ばれ、農協は農家の収益を減らし、農業者の自由な経営を阻害

しているかのような番組が放送されるなど、憂慮すべき状況にあります。役職員一同、あらためて協同組合の存在意義や理念などを学び、

一般社会への誤解をとき、農協運動の先頭に立っていかねればいけません。

講師を務めた小林国之准教授



講演では、小林准教授から、農協が持たれているイメージや昨今の規制改革推進会議による農協改革の狙い、担い手と農協経営などについて、わかりやすく教えていただきました。

J Aグループ通信

J Aグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

J A北海道大会決議事項の実践やその時々
のトピックスなど、組合員の皆様に定期的
にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイ
トをご覧ください。

J A北海道中央会

【食と農のイベントを初開催】

「北海道アグリ・フードプロジェクト」が
11月に札幌市で開催され、J Aグループ北海
道も企画主体となりブース出展やステージ企
画を実施しました。

道内各地の農畜産物や加
工品の試食・販売をはじめ
ICT関連最新技術の紹介
まで全道の出展者が集まり
幅広いブースを展開。農業
関係者や消費者の皆さん等、



約8,000人も来場者が訪れ、農業の最
先端技術に触れる場や、北海道農業の魅力発
信の場としての大きな役割を果たすイベン
トとなりました。



J A北海道信連

11月に農業経営者支援の一環として、今年
で7回目となる「農業経営フォーラム」を開
催しました。

(株)もち米の里ふうれん特産館の堀江代表取
締役に『創業からこれまでのあゆみ』を、N
PO法人失敗学会の飯野副会長
に失敗を成功のもととする『失
敗学』をテーマに講演頂きました。
参加者からは「大変勉強に
なった」「失敗から学ぶことの
大切さを教わった」など好評を
頂きました。



ホクレン

LINE@等を活用した生産者
向け情報発信サービス「ホクレン
インフォメーション」では、生産
者の皆様に向けたイベントや新商
品の情報、生産資材（飼料や農薬など）価格
スマート農業情報などの営農情報をタイ
ムに発信しております。

今後とも生産者の皆様に役立つ情報を発信
して参りますので、ぜひ、お手持ちのスマー
トフォンやパソコン (<http://hokuren-news.jp/>)
からご登録ください。



↑登録は
コチラから



J A共済連北海道

11月22日・23日に開催された「北海道ア
グリ・フードプロジェクト」で、オリジナルキ
ャラクター『ひとのわぐま』の的あてゲー
ムを実施し、多くの方に楽しんでいただきま
した。

地域貢献活動の紹介やキャンペーンチ
ラシを景品と共に配布し、J A共済
連北海道の活動を知っていたた
く機会となりました。今後もこ
のようなイベントを通し、J A
共済の周知に取り組んでまい
ります。



J A北海道厚生連



J A家庭介護教室では、高
齢の進展に伴いさらに増加する
ことが見込まれている認知症高
齢者への支援として「認知症サ
ポーター100万人キャラバン

運動」を展開し、認知症を正しく理解し支
援する「認知症サポーター」の養成や安心で安
全な家庭介護実践のための正しい技術や知識
が習得できる講義・実技演習を実施しました。
安心して暮らせる地域社会の実現に向けた取
り組みを継続して参ります。



～続・今こそJA～

【第3回】協同組合は儲けてはいけない？

協同組合は儲けてはいけないのではないかと聞くと、旧農協法第8条にも「組合は営利を目的としてその事業を行ってはならない」という条文がありました。ここで非営利の意味について考えてみましょう。

株式会社は営利を目的として、利益を株主に配当することが目的であり、この利益を「営利」と呼んでいます。一方、協同組合は組合員に對する最大奉仕が目的であり、配当を目的とした活動はしていません。これが協同組合が「非営利」といわれる所以です。

しかし、実際に協同組合が事業を進めるにあたっては利益が出ます。赤字にならないよう安全を見越して手数料を若干高めに設定したり、肥料などの購買品を大量仕入れすることでコストを下げたり、販売物を有利に販売した場合等があるからです。

協同組合では、こうして結果的に出た利益を剰余金と呼んでおり、これを組合員の利用高に応じて戻す形をとっています。ロッチ



ロッチデール記念館(ロッチデール公正先駆者組合発足当時の店舗倉庫を改装したもの)

「剰余は購買高に応じて組合員に分配する」という表現があります。こうした利益に対する考え方は協同組合がスタートした時点ですでに固まっていたと言っているでしょう。

平成28年4月に農協法が改正され、それまでの非営利から「組合は営業所得の増大に最大の配慮をしなければならぬ」という表現に変わりました。協同組合が利益を出す＝儲けてはいけないということではありません。法律が変わっても組合員の利益に配慮することは協同組合の中に脈々と生き続けているので

平成30年度 営農計画書作成協議日程

本所(会場：本所 会議室)・遠軽地区(会場：遠軽支所 大会議室)

日程	曜日	午前	午後
1月17日	水	開盛・札富美・旭	
1月18日	木	富美・上富美	
1月22日	月	北兵村二区・三区	北兵村一区
1月23日	火	屯田市街地	南兵村二区
1月24日	水	南兵村一区	南兵村三区
1月25日	木	千代田・社名淵・美山・若松・丸瀬布地区	
1月26日	金	学田・向遠軽・豊里・清川	
1月29日	月	栄野・瀬戸瀬・湯の里・若咲内	

※協議日程の都合が悪い方は、別会場・別時間でも参加可能です。
但し、別会場希望の方は、事前に担当者までご連絡お願い致します。
尚、日程が変更になる場合は、都度連絡申し上げます。

●白滝・生田原地区につきましては、1月10日以降、個別にご連絡させていただきます。

賀正

昨年中はご愛顧を賜り

厚く御礼申し上げます。

本年も旧に倍しての御愛顧の程

宜しくお願い申し上げます。

社員一同、皆様の御用命を

心よりお待ちしております。

平成三十年 元旦

(株)ジエーエーえんゆう

燃料事業部
農機・整備事業部
Eーコープ事業部

「農業女子。えん♡ゆう子」 LINEスタンプ作りしました JAえんゆうフレッシュミズ

JAえんゆうフレッシュミズでは、農業女子の魅力発信の一環として、今回、LINEスタンプを作りました。春からみんなで考えて、「農業女子。えん♡ゆう子」というキャラクターを作り、日常や農家ならではのひとコマひとコマをお互いにアイデアを持ちよって描きました。

キャラクターの描写を担当した湧別町北兵村一区の中川恵子さんは「農業や家事の合間を縫って、ひとつひとつ

つ手書きしてフレッシュミズの部員みんなで色を塗って味のあるスタンプを作りました。おかげさまで農業関係者だけでなく全く農業にたずさわっていない方、そして北海道だけでなく道外でも多くの方に購入していただけてとてもうれしいです」と話していました。フレッシュミズでは、この他にも様々な形で農業女子の魅力発信を考えているそうで、今後が楽しみです。



JAえんゆうフレッシュミズ
農業女子。えん♡ゆう子

有効期間 - 期限なし

50

保有コイン: 0

購入する

北海道オホーツクの真ん中にある、JAえんゆうの農家の嫁（フレッシュミズ）で作ってみました♪ えん♡ゆう子は、世界の平和と農業女子を応援しています。

スマートフォンのLINEアプリ内スタンプショップの検索画面で、「えんゆう子」で検索してください。
50LINEコイン（120円）で販売しています。